厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

HTLV-I 陽性シェーグレン症候群の手引きについての研究

研究分担者　川上純　長崎大学大学院医歯薬学研究科展開医療講座　教授
研究協力者　中村英樹　長崎大学病院第一内科リウマチ・膠原病内科　講師

研究要旨：シェーグレン症候群（以下SS）患者において、HTLV-1キャリアが多い地域では抗HTLV-I抗体の陽性率が高いことも疫学的に知られている。しかし、抗HTLV-I抗体SSに対する診療の手引きは無く、診断および治療についての具体策は無い。今回その作成に向けた施策案を作成した。
現在、SS患者がHTLV-1陽性である場合の診療に特別な配慮が必要であるか否かについて、関節リウマチQ&Aとの整合性を含めて検討中である。今後さらにエビデンスを積み重ね、将来的には診療ガイドラインの作成を目指したい。

A．研究目的

ヒトT細胞白血病ウイルスI型はHTLV-I関連脊髄症（HAM）や成人T細胞白血病を起こすが、シェーグレン症候群（SS）との関連も指摘されている。

B．研究方法

現在、SS患者が抗HTLV-I抗体陽性である場合、有用な診療の手引きが無いため、すでに関節リウマチで示されている診療指針を参考とし手引きを作成。
（倫理面への配慮）
これらの研究は長崎大学病院臨床研究倫理委員会の承認を得ている。

C．研究結果

HTLV-I についての一般的な説明を行い、SS と HTLV-I との関連を述べる。Q&A を作成し、抗 HTLV-I 抗体陽性 SS における特徴的な所見を記載する。最後に、診療のフローチャートを作成。

D．考察

現時点で、SS診療開始時に抗HTLV-I抗体を測定の必要性を示すエビデンスは無い。フローチャートを用いて、抗HTLV-I抗体測定の有無を確認し、陽性であれば、HAM、ATLおよびHTLV-I関連ぶどう膜炎の有無を確認の上、フォローアップを行う。腺症状のみの場合、補充療法を行い、腺外症状合併の場合はステロイド投与を考慮する。

E．結論

現時点でSS診療における抗HTLV-I抗体測定の必要性は明らかではないが、キャリアの場合HAMやATLの発症の可能性もあるため、これらを考慮した手引き完成を目標としている。

G．研究発表

1．　論文発表

・Nakamura H, Shimizu T, Takagi Y, Takahashi Y, Horai Y, Nakashima Y, Sato S, Shiraishi H, Nakamura T, Fukuoka J, Nakamura T, Kawakami A. Reevaluation for clinical manifestations of HTLV-I-seropositive patients with Sjögren'ssyndrome. BMC Musculoskelet Disord.
2015 Nov 4

2．　学会発表

・中村英樹，清水俊匡，高木幸則，高橋良子，寳來吉朗，中島好一，佐藤俊太朗，白石裕一，中村龍文，福岡順也，中村　卓，川上　純．抗ＨＴＬＶ-Ⅰ抗体陽性シェーグレン症候群の臨床症状再評価．第 24 回日本シェーグレン症候群学会学術集会．2015/9/18-19.
・中村英樹，川上　純．シェーグレン症候群におけるＨＴＬＶ-Ⅰ感染と免疫異常．第 43 回日本臨床免疫学会．2015/10/22-24

H．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得
　なし
2．実用新案登録
　なし
3．その他
　なし